

私の暮らし会議「アイデア」 R6. 4. 24

1事例目	2事例目
デイスーツ以外～屋外でも歩行器を使用してはどうか。	子ども、孫の世話をしたい。誰かの役に立ちたい。人と交流ができる場が必要。
転倒～出血のリスクあり…家族の見守り必要	食事をして帰ったり簡単な就労をしたり、自由に出入り可能な外出の場（他市の施設）を検討してはどうか。
手すりの設置…訪問リハからの提案であればよい。	短時間の訪問リハビリを利用し、具体的な助言をうける。自宅でのストレッチ方法（腰負担軽減）など。
一人でサロンに行くために、お助け隊を利用してはどうか。	1人で入浴したいという希望があり、今の生活を続ける為に、本人が信頼できる人からアドバイスを受ける。
家族のサポートでサロンの参加や自宅でサロンの開催を検討しては？	痛みのコントロールが不良なので、痛みに対してのアドバイスを受ける。
訪問リハを継続し、筋力維持し、サロンに行けるようにする。	1度にすると疲れるようなら、一日30分、活動を分けて実施してみてもどうか。
歩行器にバックミラーの取り付けはできないだろうか。	市の障害支援課に就労の相談をする。
商業施設の公衆電話が撤去され、タクシーが呼べないので、買い物に行けなくなった（連絡手段がない）。簡単に操作できる携帯を持つことを検討してはどうか。	
商業施設に公衆電話を置いてもらえないか？	買い物したいという希望があるので、地域の関わりも含め、検討してみる（買い物弱者支援）。
道沿いに一緒に行く人がいれば、サロンに連れて行ってもらう。	移動支援があると、本人の活動範囲が広がるので検討が必要。
本人の希望を叶えるために、家族の手助けが必要なので、家族と話し合いの場を持つ。	年齢的なものも考えて支援、プランを立てた方が、本人の気持ちを引き出せるように思う。
好きな買い物に行く方法として、家族が運転し、家族と本人と一緒に店内を歩き、一緒に買い物することを検討してみる。（活動量も保てる）	障害手帳持参なら、そのサービスで就労を検討してはどうか？
本人は他の人に迷惑をかけたくないと考えている。本人にとって受け入れやすい人や医療面からのアプローチも検討してはどうか。「なんでも一人でやらず、頼りましょうね」とか、訪問リハビリや薬局を中心に声掛けしてみる。本人が他の支援を受け入れやすく感じるように支援する。	訪問看護ステーションからの訪問リハビリ→1ヶ月に1回は看護師が訪問してくれるので、医療面（薬・痛み）のアドバイスを受ける事が出来る。
現在のサロンの参加状況を確認し、声掛けし、他の参加者と一緒に参加する。	少しBMI低いので、低栄養・栄養指導を受けられるとよい。
ケアプランを、柔軟なプランにしてはどうか。	訪問看護等を検討してはどうか。
高齢ドライバー問題は、社会問題（移動手段）。 70～74歳の方は高齢者講習あり。75歳以上は認知機能検査。 他地域の取り組みで、シニアカーのレンタルや、地域支え合い型ドライバー養成講習がある。	一人でお風呂に入りたい…入浴できていない？皮膚炎にもつながる。 本人が信頼できる人から、今の生活を続けアドバイスを受ける。
タクシーを利用して買い物に行く際の見守りは必要だと思うが、もし1人で行けるのなら、タクシー利用時に帰りの予約をしてはどうか。	
右下肢まひ用の装具を検討してみてもどうか。	障害手帳をお持ちであれば、多職種連携での支援を受けれるのではないかと。
セニアカーの有意義な使用の検討をする。	
公衆電話がないと困る人は多い。スーパーにタクシーを呼んでもらう等検討し地域と連携し支援する。	気持ちが前向きになれることからアプローチすることで心を開いてくださるのではないかと。
2事例とも家族の支えが必要だと感じたので、家族とも情報共有し連携すれば、いい方向に向かっていくのではと思った。	
サロンに行きたい気持ちはわかるが、ADLの状態から転倒が増えているため、もう少し自信がつけば自力で行けるかもしれないが、無理ができないと思う。地域活動に興味があるので、検討してはどうか。	痛みのコントロール不良の様子あり。痛みに対してのアドバイスを受けてはどうか？薬局が配達し、それを介入の入口としてもよいかも。信頼関係づくり大切。

タクシーを呼ぶ手段については、お店の人に呼んでもらう方法もあると思う。	してみたい事で、子ども・孫の世話・誰かの役に立ちたいとある。人と交流ができる場を作る。
利用施設入口に、手すりと数カ所インターフォン(転倒しても押せ中と繋がるナースコールの様な物)を設置する。	外出の場…他市のとある施設は、いつ行ってもよい。ごはん食べて帰るもOK。就労。
移動支援サービスDができたらいと思う。	
デイサービスの様に送迎があるとよい。	訪問リハビリを利用し、1ヶ月に1回は看護師から、医療面(薬・痛み)のアドバイスを受ける。
内服の量が多いので、疾患、病気の確認をし整理が必要。	こだわりが食生活にもあるようで、少し気になった。栄養指導が受けられるとよい。
道路に歩道を作る。	食生活の面について栄養指導が受けられるとよいと感じた。
手押し車など、シルバーカーの利用。	
転倒予防に手すりの設置の必要性を伝える。	買い物してみたい。地域の関わりも含め買い物が効果。(買い物弱者支援)
大変な時には頼るように家族から本人に伝えると、気持ちの変化があるのでは。	移動支援があると、本人の活動範囲が広がる。
自宅が近いサロンの人と一緒に行く。	
娘さんと一緒にサロンや買い物に行く。	年齢的なものも考えて支援、プランを立てた方が、本人の気持ちを引き出せるように思う。
例えばサロンに行くために利用できる同行事業があるとよい。	他職種が参加することにより、様々な視点からアドバイスがもらえ検討の幅が広がる。
見守りケータイなど、すぐ支援者に連絡がつく物を首からさげて行動する。	セニアカーを利用することで、活動範囲が広がるのではないかな。
登録をすればワンプッシュでタクシーを呼べるスマホを持ってもらう。	一日30分という風に時間を決めて、活動を分けて実施してみてもどうか。
支援者は初心を忘れず、、思い込み、決めつけにならないように、柔軟にプランを意識する。	自分でやりたい事、興味がある事がある。気持ちが前向きになるようにアプローチし心を開いてもらう。
サロンの他の参加者の状況を確認し、声掛けや一緒に参加をしてはどうか。	就労に向け同年代で誰でも集まれ、若いので就労Bの様な場(サロン、通いの場は高齢)があると良い。
	買い物支援や移動支援など、介護施設の車両を活用して、決まった場所までの送迎支援ができるとよい。
右下肢まひなので、装具の利用方法検討。	自分が行きたい場所へ行くための支援として、生活環境を整えたり家族の支援を受けたりと検討する。
セニアカーの有意義な使用の検討。	
タクシーを利用しての買物は見守りが必要。1人で行くなら往復のタクシーの予約をする。	
乗合バス(タクシー)が市内を巡回すると良い。他市で手を上げたら停まるバスがあり、各拠点にサロンの様なものもあり、1時間に1本位で8～16時まで運行していた。車が多いと難しいかも。。	